

### 仙人通信 203 秋山二十六夜山(972m)

秋山二十六夜山(高金山)は、赤鞍ヶ岳(仙通 170)と倉岳山(仙通 153)との中央に位置する山梨百名山の 19 番の山で三等三角点の山である。二十六夜とは、旧暦の正月と 7 月の 26 日に山頂に近くに住民が集い、月の出るのを祝った事に由来し、都留にも一座(仙通 138)があります。秋山村の浜沢地区にあるヤマグラキャンプ場近くの広場に車を置き、キャンプ場の中の道を進み、尾根伝いに登り、下尾崎に向かう尾根を下山するコースとした。キャンプ場の店舗やバンガローの間を抜け、15 分程で道路が終わった地点が尾根への出発点である。赤松やブナの登山道を 10 分程登ると四阿だ。西側は檜林となり視界が遮られているも、風が止まり絶好の休憩ポイントである。5 分程進むと急な登りとなるも、周囲は小檜等に囲まれ、10 分程で最初のピークだ。更に木葉で埋まった急峻な登りを 10 分で次のピークとなる。梢越しではあるが、大菩薩から雪化粧した北岳も望めた。更に次のピークを過ぎた鞍部が赤鞍ヶ岳(朝日山)方面への分岐である。登り始めてほぼ 50 分だ。露岩の間を進むコースとなり、キツイ登りである。周囲は赤松・クロモジ・黄色い花を付けたサンシュウと明るい。ガイドにはガレ場があると書かれていたが見当たらず。次のピークを越えて赤鞍ヶ岳からのコースと 20 分程で合流し、なだらかな尾根コースとなる。尾根の南側は又もや檜林となり、足元では 3 cm 程の霜柱である。靴で踏みつける音と感触を楽しみながら 15 分程進むと、下尾崎と山頂の分岐点である。5 分程で山頂であるが、西側は檜林他は直径 20 cm 程の小檜の林で梢越しの眺望である。北側は倉岳山から高柄山を手前に権現山から生藤山や陣馬までが確認出来た。南側は山梨・神奈川の県境まで出向いたが、こちらも梢越しで、大洞山・檜洞丸・蛭が岳・焼山等地図にコンパスを添えての確認だ。先程の分岐へ戻り、下尾崎方面へ進むと二十六夜山の石碑である。この建立は明治 22 年であり、地元の人々がここに集うたのだろうか。当日は細い三ヶ月が阿弥陀三尊を浮かびあげたと言われていたようだ。下尾崎に向かうコースは、かなりキツイ下りであり、ほぼ 20m 間隔に付けられたピンクのテープを探しながらの下山である。登山者が少ない為だろうか、コースは落葉に埋もれた上に赤土と滑り易い。途中でテープを見失ったが、川の手前に民家や旧道がある事を承知していたので、1 時間を要して旧道に辿り着くことが出来た。旧道から新道に出てほぼ 20 分で車に戻る事が出来た、丁度 3 時間 (10500 歩) のコースでした。駐車場の入口には二十三夜の石碑が置かれており、近くの饅頭屋の 80 代の方に二十六夜の集いや二十三夜についてお尋ねしてみたが、ご存じなく歴史を紐解く事が出来ず、心残りの山旅となりました。(R2.3.25)

南アルプスと大菩薩

山頂

二十六夜の碑

二十三夜の碑

